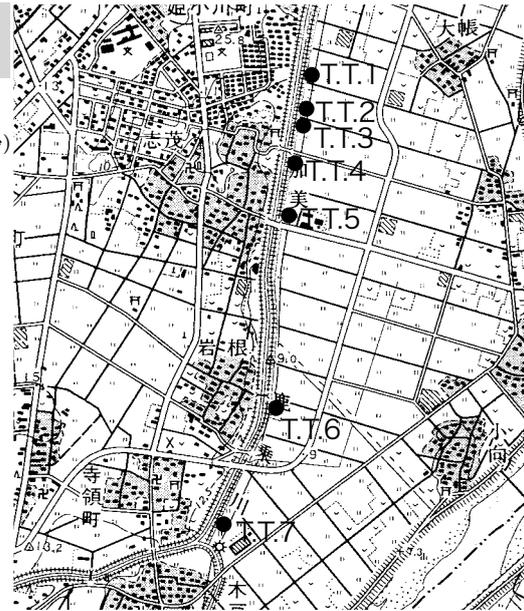


かのりがわりゅういき
鹿乗川流域遺跡群 範囲確認調査

所在地 安城市小川町寄島・上太田・向田・岩根下ほか
 (北緯 34 度 54 分 42 秒 東経 137 度 05 分 46 秒)
調査理由 中小河川改良事業 (鹿乗川)
調査期間 平成 18 年 10 月
調査面積 100 m²
担当者 宮腰健司

調査の経過 調査は県建設部河川課による中小河川改良事業 (鹿乗川) に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成 18 年 10 月に実施した。調査では、水田区画ごとに小川町寄島地内に 2 カ所、上太田地内に 2 カ所、向田地内に 1 カ所、岩根下地内に 1 カ所、寺領町坂口地内に 1 カ所の計 7 カ所、テストトレンチを設定した。



調査地点 (1/2.5万「安城・西尾」)

立地と環境 鹿乗川流域遺跡群は碧海台地縁辺に沿って流れる鹿乗川の周囲に展開する遺跡群で、平行する矢作川の自然堤防上や碧海台地縁辺部に遺跡が立地する。

調査の概要 T.T.1 では南北に 2 × 3 m のテストトレンチを 2 カ所設けた。両トレンチとも河川の堆積と思われる粘土と砂、またはその互層がみられるのみで、遺構は確認できなかった。北側の T.T.1-1 トレンチでは地表面下 1.2 m の青灰色シルトと灰白色砂の互層より土師質土器片が 2 点と木片が出土している。

T.T.2 ~ 4 では南北に 2 × 3 m のテストトレンチを 2 カ所ずつ、T.T.5 では 2 × 6 m のテストトレンチを 1 カ所設けた。その結果全てのトレンチで遺物包含層及び土坑・溝・竪穴住居と思われる遺構を確認した。遺物包含層は 10 ~ 30cm の厚さで古墳時代前半の土師器や古代の灰釉陶器、中世の山茶碗が出土している。特に T.T.2 ~ 4 では多量の遺物がみられた。

T.T.6 ・T.T.7 では 2.5 × 8 m のテストトレンチを 1 カ所設けた。その結果 T.T.6 では厚さ約 30cm の褐灰色粘土の堆積を地表面下 60cm で確認したが、遺物・遺構は見つかっていない。また褐灰色粘土を切る、斑土を埋土とする土坑が 1 基検出され須恵器片が 1 点出土している。また T.T.7 では河川堆積と思われる灰黄褐色砂・暗褐色砂・灰色砂などの互層を確認したが、遺物は出土していない。



T.T.7

(宮腰健司)